



【発信日】令和4年8月8日

【問い合わせ先】

大野市役所（2階24番窓口）

地域づくり部地域文化課 中屋、表

電話 0779-64-4834 内線 2642

「高校生ボランティア・アワード2022」出場者の

激励会を開催します

下記のとおり激励会を開催しますので、当日の取材をお願いいたします。

記

- 1 日 時 8月12日（金曜日）午後1時から午後1時30分
- 2 場 所 大野市役所2階 応接室
- 3 出場大会 高校生ボランティア・アワード2022
- 4 出 場 者 福井県立大野高等学校 3年 池端 唯透 さん
3年 三屋 文佳 さん
3年 福田 優芽花 さん
2年 村中 サキラ さん
2年 山崎 樺乃 さん
- 5 そ の 他 激励会参加者及び大会の概要は別紙のとおり
同日午後1時30分から議会応接室にて議長表敬訪問を行う

高校生全国大会等出場激励会

日 時 令和4年8月12日（金）午後1時から
場 所 大野市役所 2階応接室
出席者 市長、教育長、地域づくり部長、地域文化課長
福井県立大野高等学校（全国大会出場者：5名、引率：1名）
出場者 大野高校ボランティア・サークル JRC「結」
池端 唯透（いけばた ゆいと）さん【3年】
三屋 文佳（みつや あやか）さん【3年】
福田 優芽花（ふくだ ゆめか）さん【3年】
村中 サキラ（むらなか さきら）さん【2年】
山崎 樺乃（やまざき かの）さん【2年】
引率者 山本 千絵（やまもと ちえ）教諭

※議長表敬訪問

日 時 令和4年8月12日（金）午後1時30分から
場 所 議会 応接室
出席者 議長、副議長

【予選の結果】

6月18日（土）～7月10日（日）まで、全国を7地区に分け、オンラインで開催された「高校生ボランティア・アワード2022」地区大会で、環境や福祉、国際交流などのボランティア活動の発表と応募資料のポスターにより審査が行われた。

この結果、大野高校ボランティア・サークルJRC「結」の、地域でのボランティア活動のほか、「古着をパキスタンへお裾分けボランティア」や「ウクライナ救援チャリティー」など、この1年間に取り組んだ活動が評価され、見事中部北陸地区予選を通過し全国大会に出場する。（応募校158校中、予選通過98校）

<出場する本大会の概要>

- 1 大会名 高校生ボランティア・アワード2022 ～持続可能な未来へ～
- 2 大会日時 令和4年8月16日（火）、17日（水）
- 3 会 場 新宿住友ビル三角広場
（東京都新宿区西新宿2丁目6番1号）
- 4 主 催 公益財団法人風に立つライオン基金
- 5 実施目的 高等学校等のボランティア団体の活動を顕彰することにより、その継続と発展への動機つけとし、「高校生ボランティア活動」の素晴らしさを広く一般に伝える。
- 6 大会内容 ・大会会場内ブースでの活動発表・他校の活動観覧、交流
・シンポジウム（有識者との意見交換）・特別表彰式

福井県立大野高等学校

ゆい

JRC「結」



高校生ボランティア・アワード2022



「結」の心で地域を結ぶ

活動概要 「名水」

私たちの町、大野市は緑豊かな大野盆地にあり、冬には東京の6倍の降水量があります。この町は「天然の水瓶」。市内に数多くある清水（しょうず）から年間通しておいしい水が湧き、日本の「名水百選」にも選ばれています。私たちは代々、この水を守って農作物を作り、地域で互いに「結」合って（助け合って）きました。

「進取の気象（気性）」

大野高校の校歌にも歌われる「大野丸」。それは江戸時代に樺太と交易をしていた洋式帆船です。山に囲まれた小さな大野藩で、私たちの祖先は「未来を見通し」蘭学を学び、「勇気を持ち」荒海を越えて北へ航海しました。遠くの地域と「結」の気持ちで縁を結んできました。私たち大野人・ゆいびとは、この精神を受け継いでいます。

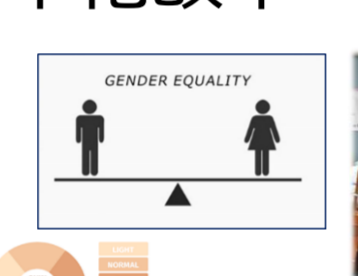
「結」の心で役に立つ

～海を越えて「結」～

1. 「越前大野 名水マラソン」で東ティモールへ水支援
2. 「古着おすそわけプロジェクト」でパキスタンへ教育支援
3. 「チャリティー」を3回実施。ウクライナへ人道危機救援
4. 「エコキャップ回収運動」で途上国へワクチン・医療支援、障がい者雇用促進

～地域のために「結」～

1. 2021全国高校総体北信越大会おもてなし活動（R1～R3）
2. 七間商店街×オレンジリボン（子ども虐待防止啓発）運動
3. 令和3年7月大雨災害義援金運動 For 静岡県熱海市
4. 「聖和園」「希望園」「誓念寺こども園」福祉施設訪問
5. 生徒会とDDD～第一次大高ダイバーシティ化改革～
校内からジェンダー平等を始めよう
・男女別名簿の撤廃 → 性別によらない名簿へ
・服装の「男子・女子」「肌色」の表記を撤廃



東ティモールへ水支援



古着をパキスタンへ



エコキャップ回収



ハロウィン×オレンジリボン

「水」の町ができること

活動の目的・志など

私たちが豊富に持っているもの、この町 越前大野で余裕があるものを皆でシェアして役立ちたい！

大野市と言えば「名水」。福井県と言えば「繊維」。

私たちの地域の強みを生かして、世界の困っている地域や人々に何かできないか考えました。

- * 東ティモールの山間部では、きれいな水を利用するのが困難です。
- * パキスタンのスラム地区では、貧困や児童労働・児童婚のため、多くの子どもや女性は学校に行けません。
- * ウクライナとその周辺国の人々は戦禍の中、不安な日々を平和を願って過ごしています。
- * ミャンマー、ラオス、ブータン、バヌアツでは子どものためのワクチン、医療物資が不足しています。
- * 日本では環境問題の他、支援が必要な子どもや高齢者障がい者、災害などで困っている人々がいます。



何か、できることがあるはず

「すべての子どもに水と教育を」

活動の詳細(実施内容/成果・実績など)

1. 東ティモールの山間部ではきれいな水が手に入りやすく、女性と子どもが毎日遠くまで水くみに歩きます。このため、多くの子どもは学校に通えず、女性は仕事に就けません。



私たちの町で58年の歴史をもつ「名水マラソン」。給水所では、おいしい地下水や名水が氷が提供されます。2016年大会から大野市はユニセフと協働して「1キロ走ると東ティモールの水設備に10円が寄付される」システムを始めました。



大野高生はもちろん、小中学生以来連続出場しているランナーもいます。コロナ禍で2020年と2021年はオンライン大会のみでしたが、今年は県内ランナー限定で、3年ぶりに第58回大会が開かれました。今回「結」メンバーはボランティアとしてランナーの荷物預かり所を運営しました。



今では、6基の重力式給水システムが完成し、村にきれいな水が供給されるようになりました。子どもたちが学校に行けるようになり、女性も農業を始めたり、水管理技士として仕事に就くことができるようになったそうです。

「水と教育とジェンダー、つながってる」

2. 2021年夏、福井県で「全国高校総体」が開催されました。私たちは3年前から「おもてなし活動」を行っていましたが、大会終了後、役員やボランティアに支給された大量の福産産「インターハイTシャツ・ポロシャツ」が不要になり...



窩

調べてみると、JFSAを通して古着をパキスタンへ送ると、スラム地区に住む子どもの学校「アル・カイル・アカデミー」の運営にそれらの収益が使われると知りました。校内で過去の学校祭Tシャツなども含め古着を集めると、全部で33着の提供があり、10月にJFSAへ送りました。会報によると、今年同校から初めて女子学生が医科大学へ進学したそうです。



日本語シャツは人気！

3. この春、ロシアによるウクライナ侵攻のことを知り、急いで何かしようと考え、3月に「チョコレート・チャリティー」としてウクライナ産のチョコレートやビスケット、ハチミツを販売し、4月にはウクライナの伝統工芸品「ピサンキ（=イースター・エッグ）」にちなんで「イースター・チャリティー」として二黄卵の販売、校内エッグハントを行いました。募金も呼びかけ、チャリティー企画を楽しむと同時に東欧の文化を知ってもらおうと工夫しました。6月には合唱部と協働し（「結」のメンバーの4人が合唱部員です）文化部発表会「煌奏祭」で「アヴェ・マリア」、「サルヴェ・レジーナ」などキリスト教の祈りの歌を聴いていただき、ウクライナ人道救援募金を集めました。3回のチャリティーの収益は日本赤十字福井県支部へ渡しました。
4. エコキャップ運動で途上国支援をしています。



Respect For All ～すべての人・モノへの尊重～

今後の展望・夢など

- ・ 私たちは人口31,200人の小さな盆地の学生ですが、コスモポリタンとして世界に貢献しようとしています。
- ・ 世界を知り、自分を知る。困っているところはないか、私たちが役に立てることはないか。手を伸ばし、遠い国ともつながる。「結」の心で未来を創る。
- ・ 「全ての人・モノはその存在自体に価値があり、軽んじられるべきではない」と考えています。これからも「全てを尊重し、ここから持続可能な未来へ繋げる」という精神で「気づき・考え・実行する」ボランティア活動を続けていきます。
- ・ 今後、湧水地の絶滅危惧種“イトヨ”保護も市の水循環課と行う予定です。



福井県立大野高校 JRC「結」

2019年に3年後の「全国高校総体北信越大会」開催に向けて「生徒活動委員会」を結成。福井県へのおもてなし活動を行ってきました。大会開催以降も「地域のため、世界のため」にチーム「結」としてボランティア活動やSDGs達成のためのイベントを続けています。2021年にはJRC「結」としてサークルを設立。県内や全国JRCとの交流も始めました。10名のメンバーは、若い発想と体力、地元とのつながり、絆を生かして参加しやすく「楽しい」ボランティア活動をめざし地域課題を探究し、創意工夫して活動しています。